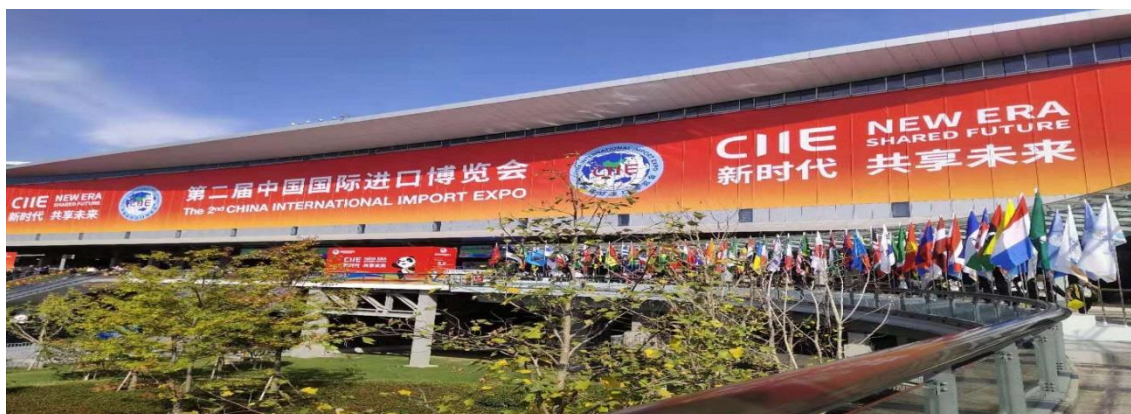


第2回中国国際輸入博覧会

岡山県上海事務所

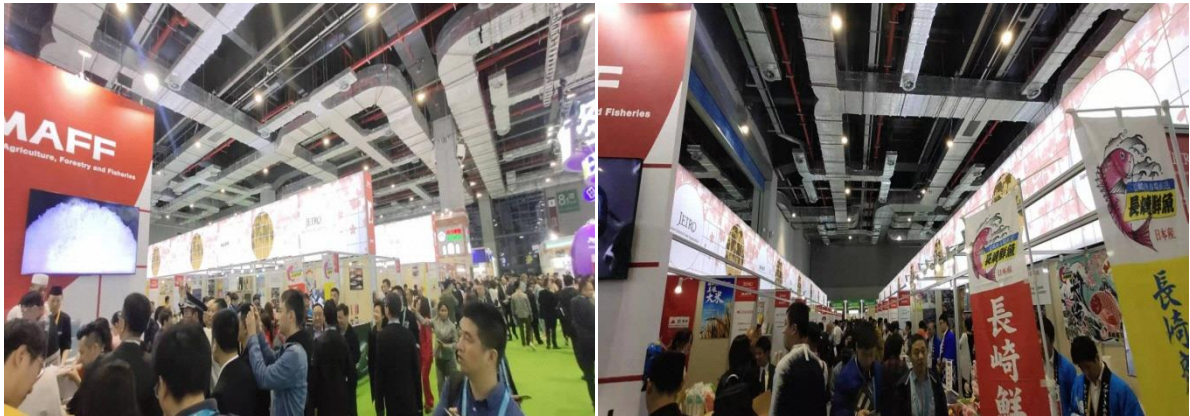
第2回中国国際輸入博覧会（以下、「輸入博」という。）が上海市で2019年11月5日～10日に開催されました。輸入博は世界で初めて輸入をテーマとする国家レベルの展示会で、今回は世界各地から3,800社以上が出展し、バイヤー来場数は50万人、成約見込み額は前年比23%増の711億ドルとなりました。出展企業のうち日本企業からは、国・地域別で最大数となる371社が出展しました。また、米国企業は大手を中心に前年比18%増の192社が出展し、国別の展示面積では米国が最大となりました。米中政府間で貿易摩擦が激化している中、米国企業は中国市場に強い関心を持っていることが推測されます。



輸入博の外観（岡山県上海支援窓口撮影）

前回と同様、展示スペースはナショナルパビリオンエリアと企業エリアの2つに分けられ、ナショナルパビリオンエリアでは、日本（JETRO）やフランス、イタリアなど64か国・地域と、WTO や国連工業開発機関（UNIDO）などの国際機関が出展しました。企業エリアには、150以上の国・地域から3,000社を超える外国企業が出展しました。展示ホールには「サービス貿易」「自動車」「設備」「科学技術生活館」「服飾・日用品をライフスタイル館」「医療機器・医薬保健」「食品・農産物」の7つのブロックが設置され、展示面積は約30万平方メートルに上りました。

JETROでは「医療機器・医薬保健」「食品・農産物」の2分野でジャパンパビリオンを設置しました。中小企業を中心に158社が出展し、会期中は多数の来場者がジャパンパビリオンを訪れました。商談成果は、前回の58億円を上回る149億円（成約見込み、MOU調印金額含む）、商談件数は約12,000件と大盛況でした。



JETRO ジャパンパビリオンブース（岡山県上海支援窓口撮影）

輸入博は多数の外資企業が集まることから、中国全土から企業だけでなく、各省や市の地方政府がバイヤーとして参加すると同時に、地方政府の投資誘致活動も並行して行われています。会期中には上海市内で投資説明会や地方政府トップクラスとの座談会などが開かれました。現在、日中関係が良好な中、日系企業の投資への期待が高まっています。

第3回中国国際輸入博覧会は、2020年11月5日～10日まで、同じく国家会展中心で開催される予定です。テーマは「技術及び装備」「消耗品スマートライフ」「食品及び農産品」「サービス及び健康」の4つで、「サービス貿易」「自動車」「消耗品」「技術装備」「医療機器と医薬保健」「食品と農産品」の6つの展示エリアの設置が予定されています。出展申し込みは昨年8月から開始されており、2020年4月30日まで受け付けています。

岡山県上海支援窓口では、輸入博など展示会の出展及び視察アテンドの支援を行っております。お困りの際はお気軽にご相談ください。